

【中学校・勤労生産に関わる体験活動】

地域産業を生かした漁労・水産物加工・職場体験活動

北海道稚内市立宗谷中学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：3学級

生徒数：68人

教職員数：14人

体験活動の観点から見た学校環境

「宗谷」は、1808年(文化5年)に、幕府から樺太見分を命ぜられた間宮林蔵が、「間宮海峡」を発見した時に出港した地として知られている。学校は、北に11km、南に7km広がる宗谷沿岸に位置し、校区には日本最北端の地「宗谷岬」がある。

宗谷沿岸地域は、四季を通じた強風や冬のブリザードなど、極めて厳しい自然環境の下で、総世帯数約300、総人口約1,000人が生活する純漁村地域である。全道、全国に知られるようになったタコやホタテ養殖の成功により安定した経営に至っている。

体験活動は地域をあげた支援により34年間の歴史があり、宗谷沿岸地域の中核を担う保護者の大多数が本校の活動を体験している。

連絡先

〒098-6754

北海道稚内市大字宗谷村字清浜

電話：0162-77-2019

FAX：0162-77-2159

ホームページ：

<http://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/souyajhs/index.html>

電子メール：

souyaty@seagreen.ocn.ne.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

地域に目を向け地域に生きる人間の育成
助け合い、勤労を尊ぶ態度の育成

地域における経済や流通の理解

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

「総合的な学習の時間」で実施。名称は「水産タイム」であり、4月～11月に実施
第1学年

漁労体験・磯の生物の観察・飼育

- ・ 操船に関する基礎的学習(5月)
- ・ エビ籠漁実習及び飼育観察(7月～)

第2学年

加工工場見学・加工品製造体験

- ・ 加工工場見学及び薫製製造(5月)
- ・ 製品配布(地域)と調査活動(6月)

第3学年

流通経路販路の学習・職場体験

- ・ 卸売市場見学(7月)
- ・ 職場体験(修学旅行時 8月)
- ・ アンケート調査活動(9月)

体制等の工夫

民間企業・団体との連携

- ・ 宗谷漁業協同組合
特別採漁漁業鑑札、実習原魚数量申請等
- ・ 加工業者の指導、小売店での職場体験

稚内市・稚内市教育委員会等との連携

- ・ 実習棟の管理営繕、実習船の使用許可

活動の成果等

自分の身近な問題に関心をもち、主体的

に問題を解決する力が身に付いた。

働くことや創造することの喜び、動植物への関心と愛護心など豊かな心を養うことができた。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

ア 地域の基幹産業である水産業を総合的に学ぶことを通して、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育成する。

イ 地域と一体となった体験活動を通して、ふるさとの先人たちの知恵や努力に学び、自ら問題を解決していく力を育成する。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「水産タイム」

イ 実施学年

全学年

ウ 活動内容



第1学年：漁労体験・磯の生物の観察・飼育
<ul style="list-style-type: none">・ 小型船舶免許やロープワーク実習を含む操船に関する基礎的学習・ 地域人材の活用を図ったエビ籠漁の体験等，漁場での活動・ 沿岸漁業後継者育成センター等でのエビの飼育観察活動・ 個人課題や年間の活動についてのまとめと発表会
第2学年：加工工場見学・加工品製造体験
<ul style="list-style-type: none">・ たこ加工工場の見学やたこ・ホタテ・ほっけの薫製づくり・ 地域への製品配布と製品に対するアンケート調査・ 個人課題や年間の活動についてのまとめと発表会
第3学年：流通経路販路の学習・職場体験
<ul style="list-style-type: none">・ 宗谷のたこをはじめとする海産物の流通経路について，卸売市場における見学学習・ 修学旅行の機会を通じて販売体験，学校で製造した薫製試食アンケート調査・ 個人課題や年間の活動についてのまとめと発表会

エ 教育課程上の位置付け

全学年とも「総合的な学習の時間」の中に位置付け，4月にオリエンテーション，11月に発表会を行っている。

オ 実施時期（日数や時間数）

4月～11月の中で，第1学年は30時間，第2学年は38時間，第3学年は46時間を充てている。第3学年はこれに加えて修学旅行での1日を販売体験として内容の関連を図っている。

カ 活動場所

宗谷中学校前浜，沿岸漁業後継者育成センター，稚内市内加工工場等

キ 継続の状況等

本校の取組は，「産業教育」として，「漁労・養殖・製造」を軸に昭和40年代に現在の骨格がほぼ完成された。これに，「流通」を加え「水産タイム」の名称で「総合的な学習の

時間」で継続実施している。

2 活動の実際

(1) 事前指導

- ・ 各教科等の中で「水産タイム」の学習との関連を図った指導を展開している。
- ・ 特別活動においては、地域の人材による豊かな体験に基づいた話を聞く「講話集会」を実施している。
- ・ 道徳の時間においては、自作資料を使用するなど、身近な話題をもとにした指導を展開し、体験活動との関連に配慮している。


第1学年	第2学年	第3学年	道徳	特別活動
自然との対話(国) 植物の姿勢と鮮度(国) 身の回りを見つめて(国) 国土の成り立ちと自然(社) 中部日本<水産業>(社) 身の回りの生物(理) 学校付近の風景画(美)	文化を考える(国) 報告を正確に(国) 環境への視点(国) 日本経済、世界と日本(社) 動物の仲間(理) 天気とその変化(理) パッケージデザイン(美) 日本人は何を食べてきたか(技)	森は海の恋人(国) 表現、意見を効果的に(国) 自己を見つめて(国) 経済の仕組みと生活(社) 国民経済と福祉(社) 生物のつながり(理) 地球と人間(理) 加工食品、生鮮食品(家) 日本の食糧事情(家)他	生命の尊重 勤労と奉仕の精神 思いやり 郷土愛 礼儀 理想の実現 生きる喜び 愛校心	講話集会 漁業関係者 卒業生 稚内市長 等 (年間10名程度)

(2) 活動の展開

()内は教科名

ア 【水産タイム年間指導計画】

- ・ 漁獲期にあわせて活動を計画している。したがって、冬期間を除く4月から11月の時期に集中して行えるよう計画している。
- ・ 各学年の活動が相互に関連し合うように配列した。

月	1年(漁労分野)	2年(加工分野)	3年(流通分野)
4	・オリエンテーション(1)	・オリエンテーション(1)	・オリエンテーション(1)
5	・小型船舶免許について(ロープワーク実習,操船に関する基礎学習)(3) ・浅海センター見学(3)	・たこ工場見学(2) ・たこ・ほたて薫製(16)	
6		・製品の地域への配布及びアンケート調査,まとめ(6)	
7	・エビの生態について(飼育・観察)(3) ・エビ籠漁実習(4) ・まとめ(3)		・漁協から聞き取り調査(3) ・卸売市場見学(4)
8			・販売体験への取組(16)
9			・販売体験,アンケート調査(6) ・まとめ(3)
10	・水産タイム発表資料作成(10)	・水産タイム発表資料作成(10)	・水産タイム発表資料作成(10)
11	・水産タイム発表会(2) ・年間の活動反省(1)	・水産タイム発表会(2) ・年間の活動反省(1)	・水産タイム発表会(2) ・年間の活動反省(1)
計	30	38	46

イ 第1学年「漁労体験・磯の生物の観察・飼育」

「えび籠漁」の学習指導案

平成12年6月27日 宗谷中学校生涯教育委員会

1. 学習の目的
1年生で、ふるさと宗谷の貴重な水産資源である「北海道エビ」の生態と漁獲方法を学び、3年間の宗谷中産業教育の出発点となるよう実施する。

2. 学習の内容【学習形態】
(1)北海道エビの生態・増養殖を学ぶ 宗谷漁業協同組合浅海センター職員【講話・観察】
(2)漁獲方法(エビ籠作成)を学ぶ 氏(漁業) 【作業・対話】
(3)漁船によるエビ籠漁を体験する 行基寺 地域からの協力 【漁労・対話】

3. エビ籠漁について
(1)日時
①エビ籠設置・操船 平成12年6月28日(水)15:30~18:00
②エビ籠引き上げ・観察 平成12年6月29日(木)15:30~18:00
(2)作業グループ・設置場所
班(学)-宗谷中教職員、(学免)-小型船舶免許所有者、(漁)-漁業従事者

グループ	指導・協力(設置・引上)	設置1	設置2
A・・・	(学免)・(学免)	学校籠1	籠B
B・・・	(学免)・(漁)	学校籠2	籠C
C・・・	(学)・(漁)	学校籠3	籠D
D・・・	(学)・(漁)	学校籠4	籠E

(3)エビ観察
1)記録用紙に観察結果を記録し、事後指導に役立つ。
2)観察後のエビは海に戻す(生きているエビ)

(4)事前指導
1)エビ籠漁の学習目的と学習内容を教える。
2)今回のエビ籠漁の協力体制(学校・地域・漁協)を教え、作業のグループ分けをする。
3)エビをたくさんとるための設置場所を考えさせる。(浅・深、海藻等)
4)記録用紙を使い、観察の仕方を教える。
5)持ち物を確かめる。
・生徒-長靴・ウィンドブレーカー・軍手・鉛筆
・学校-定規(20本)、バケツ(10個)、餌、作業台準備
6)注意を確かめる。
・教えてもらう人への注意をしっかりと聞くこと。
・船が動いている時に、絶対に立ち上がらないこと。
・教えてもらう地域の方へのあいさつや礼儀をきちんとする。
・時間内に終わるように作業を行う。

(5)事後指導
略

「水産タイム」の根幹

- 漁労体験 -

- ・ 入門期の学習としての「漁」の体験は「水産タイム」の学習の根幹に関わる活動である。
- ・ 地域の人々の協力を得るとともに教職員が船舶免許を取得し、「エビ籠漁」の指導を行っている。

学習内容

- ・ 北海道エビの生態・増養殖について

【講話】【飼育観察】【浅海センター見学】

宗谷漁業協同組合増養殖浅海センター職員

- ・ 漁獲方法について

【エビ籠製作】

地域住民(漁業従事者)

- ・ 小型船舶免許について

【ロープワーク実習】

小型船舶免許取得教職員

- ・ エビ籠漁について

【漁労体験】

保護者・地域住民(漁業従事者)

生徒の感想,ふりかえり

- ・ エビ籠をただ海の中に入れるだけでは漁はできない。海藻の間に入れると漁が良かったことから、籠を仕掛けるポイントがあることがわかった。
- ・ 海の深さによる捕れる量の違いや籠に入るのがエビだけではないことから、漁の工夫や、親を含めて漁業をする人の苦労が分かった。

指導について

- ・ 生徒一人一人に課題意識をもたせて漁労体験させることで、観察の視点が広がったり、新しい課題意識が生まれたりしていることが観察の様子から伺えた。

ウ 第2学年「加工品製造体験・加工工場の見学」

「水産タイム」の柱 - 加工品製造体験 -

- ・ 加工品製造体験は、「水産タイム」を代表する活動として、これまで途絶えることなく続けられてきた。



- たこ足の薫製づくりなどの活動を通して，生徒に地域に対する誇りをもたせるとともに，宗谷沿岸の住民の願いを胸に刻むことができるよう教育活動を展開した。

さらに，仕事への喜びを味わせるとともに創意工夫する力をはぐくみ，「ふるさと」の海を再発見できる取組とした。

- 薫製などの加工品がどのように流通していくのかを学習する「流通経路販路の学習」とも関連させ，消費者との関係を重視しながら宗谷沿岸の環境や家業，そして，水産業そのものに興味・関心をもてるようにした活動を工夫している。

< ミズダコの薫製 >

製造工程	実施数量・調味料他
・事前指導、原魚搬入、 解凍	【原魚】 450 kg 【調理】 185 kg 【調理後】 125 kg
1 日 目【調理実習】 ・総重量測定 ・調味剤漬け込み (4 8 時間)	製造個数 120 g × 593 個
3 日 目【テンドー架け】 ・水洗い (調味剤落 とし) ・テンドー架け、天 日干 (半日)	・白砂糖 18 % ・食塩 1 % ・グルタミン酸 ソーダ 0.1 %
6 日 目【燻煙完了、袋 詰め】味をよくする ため数日乾燥	おが屑 ヒッコリー

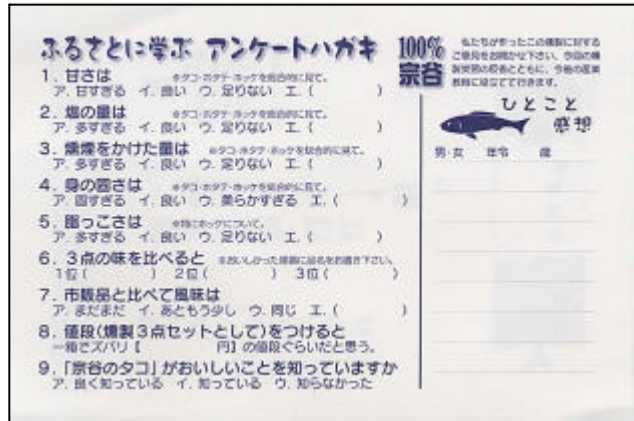
エ 第3学年「流通経路販路の学習・職場体験」

「水産タイム」を充実・深化させる - 職場体験 -

- 修学旅行を生かし，宗谷のタコを販売している小売店の協力を得て，職場体験を行った。この体験活動を通して自分の親の捕っているタコが，非常に高価なものであることや，人々の食品を購入するときの思いなどを肌で感じ，薫製を製造するだけでは得られなかった生きた学びができた。同時に，自分たちが造ったタコの薫製の試食に対するアンケート調査を行うことで，消費者の立場で薫製の製造を考える学習の深まりにつなげる。

活動の成果

- 生徒自身が親の仕事に対する誇りと宗谷への愛着や絶えず品質向上への努力をしている水産業の姿を理解することができた。
- この活動を通して生徒が地域を誇りに思うとともに，地域に働きかけることで地域を明るくした。



長出した役割の上私見くおばしの同時れた大くから宗谷のうな瞬最後あり北海道稚内市立宗谷中学校三年

出しの役割の上私見くおばしの同時れた大くから宗谷のうな瞬最後あり北海道稚内市立宗谷中学校三年
 したてた挑いきたいて思います。成人間に成
 けたちし力合わせし、自周の
 多しよ。困難か待ち受けて
 は、これた。宗谷のみなさん
 さん、が宗谷のみなさんと
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや
 家族や隣近所のおじさんや

北海 〆
道 いら
道 っし
稚 しゃ
内 しゃ
市 しゃ
立 しゃ
宗 しゃ
谷 の
中 しゃ
学 しゃ
校 しゃ
三 しゃ
年 しゃ

体験を伴った学習が感動を生み，地域を思い，自分を見つめ，生きる勇気を与えてくれた，まさに，「ふるさとを思い」「ふるさとに学ぶ」取組となった。

(3) 事後の指導

- ・ 各学年毎の体験学習について、学年毎に発表会を行った。文化祭では、活動内容の展示、各学年代表の発表、研究集録への記録化等の活動を実施した。
- ・ 薫製に対する試食アンケートを集約し、学校便りに内容を掲載するとともに、宗谷沿岸の全戸に配布した。

3 体験活動のための体制

(1) 民間企業・団体との連携

- ・ 宗谷漁業協同組合の協力により、特別に採漁漁業の許可と薫製実習用の原魚提供を受ける。
- ・ 宗谷のたこを販売している小売店（札幌）の協力により、職場体験を実施した。
- ・ 加工品製造業者の指導を受け、薫製やラベルの製造に工夫を加えた。

(2) 稚内市・稚内市教育委員会等との連携

- ・ 実習棟の管理営繕や実習船の使用許可等を得ている。
- ・ 校舎から産業教育実習棟へ安全に移動するために国道238号線に横断歩道移設信号機を設置した。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 地域の基幹産業としての水産業を総合的に学習することにより、地域の産業や経済について知るとともに、特に、水産業についての理解を深めることができた。
- ・ 働くことや創造の喜び、動植物への関心、愛護の心などの豊かな心を養うことができた。
- ・ 自分の身近な問題に関心をもち、主体的に問題を解決する力が身に付いた。

(2) 課題

- ・ 体験活動を更に豊かに進めるために、一人一人の学習テーマに基づく創造的な活動を展開する必要がある。

5 今後の取組

(1) 次年度に向けての改善の方向

- ・ 産業教育実習棟については、稚内市の小・中学校や他団体に広く開放できるようにしたい。その際に、本校生徒が加工品製造等にかかわって、指導的立場として自分たちが身に付けた力を発揮できるようにする。
- ・ 必修教科や選択教科との関連を一層図り、学習の質の向上に努めるとともに、一人一人の学習状況の評価について研究を深める。

【本事例活用に当たっての留意点】

生徒が体験活動を通して学習する際に意欲的に取り組める条件の一つは、その活動で何かが分かるようになるとか、できるようになるとかの見通しが立つ活動であることである。本事例においては、ロープワーク実習など活動内容が具体的に示されていること、教科や道徳との関連が図られていること、発表会や職場体験が用意されていることによって、生徒は学習成果が上がるという見通しが立ち、意欲的に取り組める活動になっている。

このような取組を確実に行うためには、体験活動の目標と内容を明確にすること、関係機関との連携を密にすること、それぞれの生徒に独自の学習テーマをもたせること、生徒自身がまとめと評価をすることが大切である。

地域に豊かな漁業と水産物加工業があり、その支援を受けて30有余年の歴史があることや学校のたゆまぬ努力によって、地域に根付いた安定した体験活動になっている。